

FUJIEDA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN

例会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-2-48 TEL 054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-9-16 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040

2003-2004年度RIテーマ

◆Lend a Hand◆

◆手を貸そう◆

[ジョナサンB.マジアベ]



会長：渡辺篤司 副会長：柳原寿男
幹事：小宮弘一郎 副幹事：宮川邦光

第1545回

<ソング> ROTARY SONG
<ソングリーダー> 後藤 功君



森町 香勝寺の桔梗

[写真提供：櫻井龍太君]

会長報告

渡辺 篤司君

長引く不況で我々静岡県管工事工業会も、15年前には会員が980人いましたが、現在では417名となってしまいました。この10年間で500人強の会員が退会しました。平成13年の頃から10人~30人の社員をもつ県内の同業者が1ヶ月に1社、多い月には3社が倒産しております。

9月20日小泉首相が大差で総裁再選しました。1日も早い景気回復を期待したいと思います。

幹事報告

小宮 弘一郎君

- 2004~2005年青少年交換派遣学生第2次募集の案内が届いています。
- 石和ロータリークラブ会長小田切秀樹さんより地域での奉仕など当クラブ質問への返答のお礼状が届いています。
- ロータリー米山記念奨学会より米山月間用資料が届いています。事業報告も届いています。

出席報告

平田 宗太郎君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
32 / 43 74.42%	33 / 43 76.74%

(1)欠席者(事前連絡とメーカーキャップをどうぞ)

酒向君 仲田廣君 平井君 望月志君
平君 浅川君 板倉君 鈴木舜君 仲田晃君

村松英君 村松宏君

(2)メーカーキャップ者

宮崎 啓之進君(静岡東) 片岡 利碩君(藤枝南)

スマイルBOX

宮川 邦光君

お蔭様で会社設立30周年を迎えました。不景気のため気持ちだけです。少々ですみません。

村松 徳君

スマイル累計額 300,500円

テーブルメイト A 会員卓話

セールスマン今昔

松葉 隆夫君

昔の営業はとてもよかった。仕事は大変だが必ず遊びがついてまわった。昼間はお茶の商売をして、夕方からはその販売店の親父さんと料亭やそれに近い飲食店で芸者衆と懇親会風のお遊びが出来た。

これは交通手段も今のように発達してなかった為に、必ず出張には宿泊がついたのも幸いしたのではないかと思われる。一緒に遊んだりした時には商売も値引きもしたけれど必ず売れた。その頃は私よりも10~20才も年の多い方々でしたので、いつも商いを教えてもらっていたが、今はどうでしょう。私よりも年齢はかなり下の方々が多く、値段もこちらで提示したのが気に入らなければ成立しないし、気に入れば値引き交渉もなしの世情に変わってしまいました。これも時代の流れだと思われませんが、私も「そろそろセールスを若い社員に変わらなければならないかなあ」と思っています。



ジャズと私

青島 克郎君

9年ほど前にひょんなことから音楽を趣味とすることとなりました。元々若い頃から音楽に興味があったわけではありませんが、勿論、楽器演奏することなど思いもかけない事でした。強いて言えば十数年前足繁く通った夜の町でカラオケを歌いお姉さん方にお世辞で上手ねといわれ、それをまともに受け俺は以外と音楽のセンスがあるのかなと思っていた程度です。しかし、楽器を初めてそれが全く勘違いだったことを思い知らされることとなりました。

きっかけはマルタのフュージョンだったとはいえ、本当のところはサックスで「夜霧よ今夜もありがとう」なんか吹ければと思っていた程度でした。しかし、元来の凝り性があるとなりジャズ演奏に憧れるようになりました。

何しろサックスは大きな音がするもの、夜練習すると家内がいい加減にしてくれという、それなら防音室を作るしかないんじゃないかとがらくたのしまつてあった石蔵をスタジオに改装してしまいました。

徐々にその噂が音楽好きの人たちに伝わり、昔クラブで演奏していたとか言うベテランのミュージシャンが集まり初め一緒に練習するようになりました。一緒といったってこちらはド素人、本来は一緒になんか出来るはずがありませんが、彼らにとってせっかく見つけた練習場所が餌となり我慢してもらいながらここまで続けてくる事が出来ました。思えば無茶な事をしたものだとつくづく思います。

毎週火曜日はコンボ編成(3~6人)での練習、金曜日はフルバンド(16~17名)の練習を続けています。うまく演奏できずにいつも落ち込みますが、それでもあこがれのジャズ演奏が少しは出来るようになりまあ良かったのかなと思っています。最後に、ジャズの簡単な歴史というか流れをお話しさせていただきます。



ジャズ創世記(1900-)

ジャズの発祥の地はアメリカのニューオーリンズとされています。この時代にコールマンホーキンスなど後のジャズシーンを支えるミュージシャンが誕生しています。

スイングジャズ(1930-)

ビッグバンド華やかかりし時代。ダンスミュージックのような形態でソロ奏者がアドリブを演奏。(デュークエリントン楽団、後にカウントベイシー楽団など)

ビバップ(1940-)

スイングジャズに飽きた若手のミュージシャンがコード進行に基づくアドリブを中心としたモダンジャズの原型(テーマ アドリブ テーマ)といえる演奏が広まっていった。(チャーリーパーカー、ディジーガレスビー)

クールジャズ(1948-)

これまで黒人が中心だったビバップから白人中心のクール・ウェストジャズと呼ばれる演奏スタイルで、スイングのモダン的なアンサンブルを重視したわかりやすいアドリブを展開した。(スタンゲッツ、アートペッパー)

ハードビバップ(1955-)

白人ジャズに対抗し、黒人ミュージシャンの新しいスタイルのハード・パップとファンキージャズ。(ソニーロリンズ、ジョンコルトレーン、マイルスデイビス、セルニアスモンク)

モード(1960-)

コード進行に基づくアドリブの限界からスケールに基づく新しい奏法が演奏されるようになった。一定のスケールの旋律で全体のメロディーを表現する。(マイルスデイビス、ウェインシヨーター)

フリージャズ(1960-)

テーマから始まりその後の進行はハーモニー、リズム、テンポも自由に演奏するスタイル。(エリックドルフィー)

大体このような時系列ですが、このほかラテンのボサノバのリズムをジャズに取り入れたり、新しい電子音楽とのミックスでジャズの兄弟のよう

なフュージョン等があります。あくまでも古い時代のものから新しいものにとって代わるというのではなく、それぞれのスタイルが現在でも共存し演奏されています。

(担当/鈴木廣)